

TOKUYA TIMES

とくや
タイムズ

Now

<http://ito-tokuya.com/tokuya>

伊藤 とくや

Spring, 2009, vol.8

クニ
日本の未来！豊橋の『教育について』

第8号発行のご挨拶

3月議会一般質問のテーマは、本市の『教育について』です。

卒業・進学・進級の季節「3月」。私自身の学生時代を振り返ると、小学校卒業時に、クラスで卒業文集を作ったことが懐かしいです。文集には共通のテーマがあり、それは「将来の夢」でした。

2009年2月18日号のニュースウィークには「しぼんだチャイニーズドリーム」という見出しで、このような記事が記載されていました。

『よく働いて、よく勉強すれば成功できるというのは、お馴染みのアメリカンドリームだが、実は中国にも独自のドリームがある。1400年以上前に隋王朝で実力本位の管理採用試験「科挙」が導入されて以来、親も子も信じてすがって来たチャイニーズドリームである。勤労を重んじるのはアメリカと同じだが、中国では教育のほうははるかに重要視される。教育こそが、自分と家族の暮らしを楽にするための武器なのだ。…しかし、その価値観が不況や高学歴者そのものの増加により崩れつつある』という特集記事です。

翻ってわが国においても、「よく学び、よく働く者は成功する」という考え方は古くからありますし、中国の制度に倣った歴史もあり、教育を重視する傾向は強いです。

夢の実現には、夢に向かって努力した者だけが、その夢を手に入れることが出来る。しかし、昨今の世界同時不況のあり様は、「よく学ぶこと」や「よく働くこと」が、果たして将来の「夢」や「希望」の実現につながるのか、教育という投資に対し果たしてリターンが期待できるのか、疑わしく感じる、まさに夢がしばみつつある状況です。

さらに、格差社会は教育を受けたくとも受けにくい状況をつくりつつあります。

そのような中、新学習指導要領が導入されようとしています。

問題【1】 世界不況のなかで、教師はどの様に「子どもたち」に将来の「夢」や「希望」を抱かせているか。
教育の「不易」と「流行」をどの様に捉え、発信しているのかについて

“子どもに「夢」と「希望」を”

問 夢がしばみつつあるといわれる現代社会だからこそ、先生からの心に響く励ましの言葉は、子どもたちにとっても大切ではないか。

世界不況のなかで、教師はどの様に「子どもたち」に将来の「夢」や「希望」を抱かせているか。さらに、教育の「不易」と「流行」をどの様に捉え、発信しているのかについて伺う。

答 教育とは、次代を生きていく人間を育てる「未来への準備」であり、将来にわたって必要とされる資質や能力、すなわち「生きて働く力」を意図的、計画的に子どもに培っていく営みである。教育現場では、子どもたちに自らの良さや可能性を見出し、夢や目標の実現に向けて日々努力することの大切さ

を指導している。「不易」と「流行」についての考えは、本市の目指す教育の方向性を示したパンフレット「この子の輝く学びの創造」の中にも位置付け、学校関係者のみならず一般市民に対しても発信し、周知を図っています。

おもい めまぐるしい変化、さらに世界同時不況の現代、学校教育に求められる方向や姿は変化していく。だからこそ、教育の本質である「不易(不変)」と「流行(変化)」を見極め、探究し、両者を融合させる事によって、時代に先駆る豊橋の「新不易(新たな不変・新スタンダード)」教育を実現していただきたい。

さらに、先生方には折りに触れ、子どもたちに対して「たゆまぬ努力」「挫折の克服」「ゆるがぬ意志」の大切さを説き、「高く・広く・大きく」学ぶ豊橋の教育を推進していただくことを強く願う。

問題【2】 「環境教育」の現状と課題について

問 持続的発展可能な社会を実現するには「環境教育」は必須の課題。そこで、時代のテーマである本市の「環境教育」の現状と課題について伺う。**答** 小中学校では、社会科や理科といった既存の教科学習の中で、学習単元に環境教育の視点から目標を加え、環境についての知識や意識を高める取り組みを行うとともに、総合的な学習の時間等において、体験的な活動を通して実感的に環境保全の問題を理解させる取り組みも大切にしている。また、多くの小中学校では、特色ある学校づくりとして、地域の特性を生かした環境教育に取り組んでいる。

一方、指導者である教員自身の意識や理解、指導力等が課題である。

問 新しい学習指導要領をにらむなかで、絶えず新しく変化していく教育分野「環境教育」について、本市は指導者の意識や指導力を高めるために、今後どのように取り組んでいくのかについて伺う。**答** 環境保全に対する子どもの意識と実践力を高めるためには、一人一人の子どもが、身近な問題に対して具体的な活動を軸に取り組みめるような教材の開発が望まれる。また、環境教育の質的向上を図るためには、指導者自身の意識や指導力を高めることが必要。

今後は、環境教育についての教員研修を課題研修として研修体系に位置付け、取り組んでいきます。

おもい 「身近な環境について考えることが環境教育のスタート」

自然への興味や好奇心から、生物や科学に興味を持つことで環境への関心を持つ、政治や経済を学ぶ中で環境問題を考える、さらに格差社会や公平性など環境問題の事実と多面的な真理を探究するなど、持続可能な「環境」を保全し、公益をもたらす社会を創造する、人づくりの芽を学校教育の中で吹かせてほしい。近い将来、本市から世界の環境に貢献できる素晴らしい人材が輩出され、世界に称賛されることを強く願う。

問題【3】 経済の教育の現状と課題について

問 今回の世界同時不況は、もはや経済は一国に留まらないグローバルな状況であることを教えてくれた。そしてわが国の経済はといえば、「底が抜けるかもしれない」程、深刻な状況であり、広がる格差、厳しい雇用環境、待たなしの環境問題、さらに世界に類を見ない少子化・高齢化社会を迎えようとしている。そのような中で持続的な経済成長を取り戻すためには、経済再生の確固たる基盤整備の必要があり、そのためには未来を切り拓く人材育成が必須となる。

本市における**経済の教育についての現状と課題について**伺う。

答 実践的な学習に取り組んでいる小学校もあるが、このような例は少なく、一般的には、社会科の学習の中で、小学校ではお金の価値等について、また、中学校では公民的分野の中で経済の仕組み等について、どちらかといえば「知識」として扱っているのが実状。学校だけでは難しい側面もあり、関係機関と連携しながら進めていきたい。

問 経済の教育を推進するために、関係機関と今後どのような連携を図っていくとしているのかについて伺う。

答 たとえば、商工会議所青年部では、本年度から「ビジネス・パーク」という講座を行っており、税務署では、長年にわたり租税教室を実施している。「ビジネス・パーク」は、講話と仕事体験が組み合わせられ、知識と体験を通して学ぶことができる。本年度は中学校1校で実践し、来年度は4校で実施する予定です。租税教室についても、講座内容を工夫していただいています。

おもい 今回の大不況も人が招いたこと。世界金融危機の引き金になったのが、アメリカのサブプライム問題。ローンを利用した人は、中央・南アメリカの移民や、お年寄りが多い。英語が解らなかつたり、ローンの仕組みが理解できないが勧められるまま契約した人が多いという。

子どもたちが将来、生きて行くにあたって真に役立つ「**金融リテラシー**」教育の推進を強く願う。

問題【4】 英語特区の目指す先について

問(ア) 「英会話授業のめざすもの」として、『英語で自分の意思を伝えたり、受け取ったりする英語運用力を身につけ、臆することなく外国の人々とコミュニケーションを図ることができる。』『英語運用能力を基礎として、異なる文化を持った人々と相互理解を深めながらお互いを尊重し合い、身近な外国の人々とも快適に暮らそうとする「共生の心」を持つ事ができる。』としている。

めざす生徒像の育成の進捗について、現状と課題を伺う。

答(ア) 中学校では、積極的に英語で外国人英語指導助手と会話をするなど、コミュニケーション能力や学習意欲が高まってきている。小学校では、研修の充実と、本年度より指導的立場の教員がチームを組み、小学校への巡回指導訪問を行った。2年及び3年を経た現在、順調な歩みをみせているが、小学校と中学校のつながりについては課題である。小中一貫のカリキュラムの見直しや教材の充実を図っていく必要があると考えます。

おもい 英会話授業の工夫と「共生」について後ほどまとめて伺う。

問(イ) 『スピーチ、ディベート、ディスカッションなどを通してお互いの情報や思いを伝え合う。』『外国と日本の言葉、生活習慣、文化の違いを知り、自国に誇りをもって国際交流に取り組む』とする、**めざす「3rd Stage」への現状と課題について**伺う。

答(イ) 「英会話」副読本「I LOVE TOYOHASHI」にはディスカッションの活動と、豊橋市民としてのアイデンティティを醸成する工夫をしている。ディスカッションやディベートは、高度な知識や英語運用能力が要求されるため、他の教科でも、こうした活動を支える力を鍛えることが課題です。

問(イ) ディスカッション、ディベート等は、まずは日本語でできることが必要であり、あわせて自己のアイデンティティの確立が必要だと思いが認識を伺う。

答(イ) 他の教科や領域での取り組みを工夫していくことも大切です。

おもい 国際化が進む現代だからこそ、21世紀の「**和魂洋才**」が必要。

問(ウ) 中学では英語教師が、小学校では学級担任が外国語指導助手(ALT)やスクールアシスタント(SA)とチーム・ティーチングしているが、**教師がALTやSAとともにつくりあげる英会話授業の工夫について**伺う。**今の体制で充分なのか。また判定は難しさがあると聞くが。**

答(ウ) 中学校では、専門の英語科教員がプラン作りを行うので大きな抵抗は無いが、小学校では、学級担任がカリキュラム・スタンダード版を参考にし教材を用意し授業づくりに取り組むので、慣れない教員にはハードルは高い。

おもい 娘が晋州市の「小学生交換(ホームステイ)プラン」に応募したおり、家庭への受け入れでは、意志の疎通に大変苦労した。そこで、英語にて話しかけたところ韓国の小学生の英語力が大変高く、日常会話が円滑にでき大変驚いた。その韓国の英語教育には英語村がある。本市は英語村を建設しなくても、たとえば学校において丸一日を英語の日とする、子ども未来館のプログラムの中で英語村を開催することなど、是非検討いただきたい。

問(エ) 生きた現代英語の教材として「**大統領就任スピーチ**」などを活用した、**学習教材の工夫と反映について**伺う。

答(エ) オバマ大統領のスピーチが聴衆の心を打つのは、自国の文化や伝統を理解し、自分なりのものの見方を持ち、磨かれた言葉で伝えるからです。グローバル化がすすむ今、世界の様々な情報が、英語の学習だけでなくあらゆる教科・領域の学習において生きた教材となりうると考えます。

おもい オバマ大統領の普遍的価値観「**忠誠心**」や「**愛国心**」について、いつかディベート、ディスカッションする日が来る。「お国」といえば「自分の故郷」、愛国心は郷土愛。副読本「I LOVE TOYOHASHI」の更なる充実を期待する。また、英語教育推進計画では「**知識のグローバル・スタンダード化**」を挙げられており、インターネット上のスタンダード言語は英語。英語により世界から発せられる情報を如何に活かすか、如何に使いこなすかなど、**情報リテラシーの育成と多面的思考を持つ豊橋っ子を育成すること**を大いに期待する。

問題【5】 「平和・交流・共生都市宣言」の理念反映について

問 豊橋市制100周年の果実である「**平和・交流・共生の都市宣言**」の理念を学校教育でどのように活かしていくのかについて伺う。

答 国際化の進展に伴い、互いの文化・習慣・歴史を認め合いながら、交流する場はますます多くなっており、その必要性も高まっている。国際交流を進め、共生社会を構築し、日本人の誇りをもった地球市民の一人として、世界平和の実現に寄与しようとする子どもを育成することにつなげたい。

おもい 平和・交流・共生の都市宣言こそ、英語で学ぶに相応しいテーマではないか。平和については、戦争体験の風化を防ぐ試みとともに、「戦争」と「平和」について「スピーチ、ディベート、ディスカッション」ができる子どもたちを育成することではないか。**交流**については、姉妹都市交流とともに、英語教育推進特区の推進することではないか。**共生**については、人権教育や、多文化共生意識の学習づくりとともに、あらゆる人、社会、自然の相互依存を認識し、すべてのいのちを慈しみ、強く、優しく、豊かに、美しく育てる意味を考えることではないか。この都市宣言を学習の場で活かすことで、本市が真の平和国家日本の先駆けとなることを強く希望してすべての質問を終わります。

“TOKUYA TIMES” 編集後記

人づくりは『担雪埋井(たんせつまいせい)』である。
雪を担(かつ)いで井戸を埋める。雪は井戸水で解けてしまえば、無駄な努力に思える。が、地道な努力を続けることで、雪で井戸を埋めることもできる。100年に一度の危機といわれるが、これは500年に一度といわれる駿河之國出身の名僧「白隠(はくいん)禅師」の言葉です。
まちづくりはひとづくり『担雪埋井』! 一所懸命に頑張ります。

市政報告会のご案内

平成21年5月26日(火)カリオンビルにて、
午後3時~4時 市政報告会 第一部
午後7時~8時 市政報告会 第二部
今回は予算など3月議会の報告とともに、「プレミアム商品券」「ウズラ」などの課題も含めた市政報告会です。是非お越し下さい。

発行

伊藤とくや事務所
豊橋市松葉町3-70
FAX: 0532-56-5521
TEL: 0532-57-4192
bbito@mx1.tees.ne.jp
携帯: 090-3855-9696